

文化財情報資料部報（平成三十年度）

異 動（平成三十一年四月一日付を含む）

文化財情報資料部近・現代視覚芸術研究室長塩谷純は平成三十年七月一日付で上席研究員に昇任した。

米沢玲は平成三十年七月一日付で文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室研究員に採用された。

副所長山梨絵美子は平成三十一年四月一日付で文化財情報資料部部長兼務を免除された。

文化財情報資料部近・現代視覚芸術研究室長塩谷純は平成三十一年四月一日付で同部長に昇任し、同室長兼務となった。

オープンレクチャー

第五十二回目のオープンレクチャーは、「かたちからの道、かたちへの道」をテーマに掲げ、研究所セミナー室において左記の通り開催された。

十月二十六日（金）

文化財データベースの作成とその意義について

小山田智寛

雪村周継と臨済宗幻住派―大雄山法雲寺を起点に―

筑波大学 水野裕史

十月二十七日（土）

裸婦に表された地域性―フジタ・常玉・陳澄波を例に

山梨絵美子

伝統を現代につなぐ…齊白石が描いた花鳥のかたち

京都国立博物館 呉 孟晋

研究会

四月二十四日 武村耕靄と明治期の女性日本画家について

田所 泰

五月二十三日 カリフォルニア大学ロサンゼルス校におけるアーカイブズの収受・保存・提供

―ヨシダ・ヨシエ文庫を例に

橘川英規

十月二日

平時絵技法で用いられる金属材料の形状について

永島明子

六月二十六日

土佐光起著『本朝画法大伝』考

―「画具製法并染法秘伝」を端緒として―

小野真由美

七月三十日

伏彩色螺鈿に関する研究会

ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と

二神葉子

と伏彩色螺鈿に関する調査研究の概要

ワット・ラーチャプラディットの漆絵に見られる楽器等のモチーフ

高桑いづみ

ワット・ラーチャプラディットの漆絵に見る故

中央大学 長井尚子

事人物図について

昭和薬科大学 薬師寺君子

ワット・ラーチャプラディットの扉部材の撮影

城野誠治

X線透過撮影によるワット・ラーチャプラ

ディットの扉部材の構造調査

ワット・ラーチャプラディットの扉部材の分析

犬塚将英

バンコク・ワット・ラーチャプラディット漆絵・

螺鈿扉の蛍光X線分析結果

ワット・ナンチー及びワット・ラーチャプラ

ディットの漆絵・螺鈿扉の蛍光X線分析結果

江戸時代後期の薄貝螺鈿技法に関する考察

増渕麻里耶

―ワット・ラーチャプラディット寺院螺鈿扉と

輸出漆器

伏彩色螺鈿再考

漆工品保存修復専門家 山下好彦

―技法と史的資料から

中之島香雪美術館 勝盛典子

コメンテーター 京都国立博物館

永島明子

平

時

七

九

―南蛮漆器作例を中心に―
金沢大学 神谷嘉美
コメンテーター 目白漆芸文化財研究所 室瀬和美

十二月二十七日 絹本着色技法の史的展開について
仁和寺所蔵孔雀明王像をめぐる一考察

東京藝術大学 京都絵美

十二月二十七日 病苦図像の源流

―静嘉堂文庫蔵「妙法蓮華経变相図」について

共立女子大学 山本聡美

静嘉堂文庫美術館本「春日曼荼羅」と高階画系

成城大学 相澤正彦

一月二十九日 田中一松の眼と手

―田中一松資料、鶴岡在任期の資料および絵画

江村知子

作品調書を中心に

近代京都画壇における世代交代のきざし

京都造形芸術大学 多田羅多起子

二月二十八日 二幅の不動明王画像

米沢 玲

三月二十六日 サハリンと千島列島の美術

北海道大学 谷古宇尚

刊行物

『日本美術年鑑 平成二十九年度版』 平成三十一年三月

『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵

卷十九・卷二十 光学調査報告書』 平成三十年十二月

『黒田清輝 黒田記念館所蔵品より』 平成三十一年一月

『東京国立博物館所蔵 国宝平安仏画―光学調査報告書』 平成三十一年三月

データベース

明治大正期書画家番付データベース 平成三十年五月